

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成 24年 10月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした開放的な環境の中で生活できる。 デッキを通じて2ユニットの利用者同士の交流が図れている。 また、担当ユニットだけでなく、他ユニットの利用者の特性も把握に努め、全職員が支援にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海や町が一望できる高台に立地し、宇和島城が目の前に見える。代表者をはじめ管理者、職員全員が前向きな姿勢でケアに取り組み、利用者の望むことは叶えてあげたいとすぐ行動に移している。代表者と管理者は職員から信頼されており、何でも話せる良好な関係が築かれている。職員は一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを行っており、穏やかに楽しく生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームあかり
(ユニット名)	ほたる
記入者(管理者)	
氏名	渡部和美
評価完了日	平成 24年 10月 22日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で自分たちが目指している介護理念を作り、実践に努めている。 年度末に見直しをし、新たな理念に変更した。 理念は、職員の目の届く場所に掲示している。	
			(外部評価) 昨年、職員で話し合いをして理念の見直しを行い、新しい理念を作り共有し実践につなげている。年度末には、理念の実践について全職員で振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの保育園児がミュージックケアに2か月に1度来てくれたり、芋ほりを一緒にしたり、散歩の途中で立ち寄ってくれたりして、交流が増えている。また回覧板で、32班の地域の方に「あかりだより」を回していただき、事業所での行事や利用者の声を伝える機会が来ている。感謝デーには、150名ほどの地域の方の参加があった。	
			(外部評価) 地域に根ざした運営をめざし「あかりだより」を自治会に配布したり、近隣の保育園や小学校と交流の機会がある。利用者には子供の生き生きとした笑顔が喜ばれ、積極的にコミュニケーションを図っている。また、自治会のボランティアが頻りに訪問してくれる等日常的に交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月のあかりだよりで、毎月1日を見学・相談日としてお知らせし、地域の方の認知症でお困りの時の相談窓口となるよう努めている。 また、認知症の方の力や思いを伝えられるよう、たよりの内容を考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 現状を伝えていくことでグループホームを理解していただき、運営推進会議の中から相談窓口になってほしいとの要望を受け、実施している。情報を地域の人に配信し、理解者が増えている。またその中でご意見をいただき、サービスの変更等も行った。参加いただいている他のグループホームとの交流が始まっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、事業所の活動や状況を報告し課題等を話し合い、避難訓練を会議と合わせて行うなどしている。参加者からは活発な意見が出されて、意見を運営に活かすよう心がけている。</p>	<p>報告等にとどまらず、多方面からの情報を収集し幅広い意見が取り入れられるよう、近くの小学校や消防署へも参加の呼びかけをするなど工夫に期待したい。また参加者の役職を記載する等議事録がより分かり易いものとなるよう望みたい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 広報誌や報告書は速やかに市担当者へ届けて近況を伝え、時には市役所担当者より指示を仰いでいる。運営推進会議に参加いただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の相談等で連携を深めている。運営についても報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修を受け、身体拘束について理解している。身体拘束はしていない。</p> <p>(外部評価) 職員が身体拘束をしないケアを正しく理解するように、事業所の新人研修にも取り入れて、外部研修後には伝達研修を行っている。言葉での拘束がないように、職員全員で意識しながら対応をしている。日中は玄関の施錠をせず、チャイムの音や目配りで安全確認をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新任者への研修を実施し、全職員虐待防止については理解している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け、理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明し、理解していただけるように心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 熱心に参加していただき、ボランティアで施設内の大工仕事をしてくださったりしている。誕生日に利用者の思いを届けることで、利用者をかかわらぬ人として振り返ることが出来る機会を設けたり、意見を聞けるよう努力している。家族会で話し合う機会もある。 (外部評価) 利用者や家族が運営推進会議で意見や思いを表せる場を設けている。また、家族の面会時や家族会開催時に意見や要望を聞くように努めている。家族からの意見はあまりないが、細やかな対応をするよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングやユニット会だけでなく、リーダー会を開催。 委員会活動が中止となり、職員自らが努力している。また、行事の内容についても職員からの意見で変更することも多い。利用者のことについても種々の意見がでるようになった。 (外部評価) 管理者は職員と良いコミュニケーションを図り、良好な職場環境作りに努めている。職員は日々気付いたことを管理者に話したり、毎月のミーティングやユニット会、リーダー会でも活発に意見を出して、運営にも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 基準配置以上の体制がとられ、職員は各自が勤務評価を行い、上司は努力を認めている。 代表者による緊急時対応ができ、夜勤帯の安心感につながっている。またリフレッシュ休暇の設備により、身体的に負担がかからないよう配慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多くの研修に参加する機会があり、報告会で皆で内容の共有を図ることができている。 新任者研修計画に沿って実践している。 ミーティングでの研修を内容豊かにできるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議に参加していただいたり、市のグループホーム交流会に参加し、連携や交流を図っている。 地域密着型サービス協会の相互研修に参加し、サービスの向上とネットワークづくりに努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申し込みの際、施設見学をしてもらっている。面接時に生活歴や要望を聞き、職員で共有している。 入所当初は本人が不安にならないよう、できるだけ傍について本人の希望をよく聞くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学をしてもらっている。 家族の要望や不安、昔話に耳を傾け、安心できるよう努めている。入所当初は家族へのこまめな報告に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の要望を聞き、叶うようケアプランに取り入れて支援している。 在宅で利用していたサービス事業所との連携に努めたり、かかりつけ医との連携をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や掃除、下膳や洗濯物たたみ等、できることはしていただき、職員が利用者に感謝を伝えながら生活し、関係を築いている。当たり前のこととして利用者が仕事を分担されている。また、利用者から職員にお茶のお接待があることもあった。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にとって来やすいホーム、話しやすいホームを目指している。ホームでの行事や生活をできるだけ多く伝えていくことで、関係や交流を図っている。 受診や外出など、できる範囲で家族に協力をいただいている。 職員と面会時より話をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 2～3時間自宅に帰り、商売を手伝う利用者もいる。 かかりつけ医やなじみの美容院に通っている。 家へ電話をしてほしいとの要望に合わせて対応している。 地域の敬老会へは参加している。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。地域の敬老会に参加したり、馴染みの美容室に通ったり、また自宅に帰り商店の仕事を手伝う利用者もいる。事業所前に馴染みの魚の行商が来て、職員と一緒に品定めをしている利用者の姿が見られた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他利用者にやさしく声をかけたり、手を引いてくれたりと助け合う場面も多い。 難聴がある利用者同士の会話の橋渡しをし、関われるよう支援している。また、利用者の性格や特性を把握し、トラブルが起きないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了した方の家族さんにも今回の感謝デーなど行事に参加いただき、喜んでいただいた。 退所しても、入院が長引いている方を見舞いに行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より会話に努めており、気づいたことは報告し、できるだけ叶えている。誕生月には特に思いを聞き、文章として残し、家族へ返している。 利用者本位には考えているが、できる限り利用者の言葉で伝えていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに向き合いながら思いや希望を聞き取れるよう日頃から努めている。誕生月には特に時間をかけて思いを聞き取り、文章として残す工夫をしている。「思いシート」から事業所が利用者を大切にしている、思いや意向を知る努力をしていることが分かる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族の方にも生活歴をお聞きしたり、入所当初に本人、家族、ケアマネジャーから情報を得るようにしている。 新しい情報はシートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送り時間に徹底して情報を共有し、本人に合わせて暮らしていただけるよう、チームケアに努めている。 毎月のユニット会でモニタリングし、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のユニット会で担当者がモニタリングし、職員全員でカンファレンスし、課題の把握とケアの在り方について検討している。必要に応じてその都度ケアプランを変更している。また担当者が6か月ごとにアセスメントし、本人、家族に意向確認して介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者がその人らしく暮らせるためにはどうしたらよいか常に考えて、担当者を中心に話し合いを行い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い評価を行っている。管理者は職員の意見を反映させて、介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護計画の実践を24時間シートの記録に残し、1日の中で取り組むことができるようにしている。また、新たな課題が出てきたときには、随時担当者会議を開き、介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) リハビリ体操の習慣化や個別のリハビリ等も取り入れている。 趣味を楽しめるよう、陶芸教室やボランティアによるお花教室を開催している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 保育園、小学校との交流が増え、感情豊かになられている。地域の魚屋、肉屋、八百屋、パン屋に来所してもらい交流している。公民館や保育園からは資材をお借りすることもある。ボランティアによるコーラスやカラオケ、詩吟など楽しませてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医や専門医（眼科・整形・皮膚科等）の通 院は、家族の協力のもと継続している。協力医への変 更は十分体調も安定し、家族からの希望により実施し ている。体調の変化についてはすぐに対応したり、協 力医の協力も大きい。	
			(外部評価) かかりつけ医や専門医への受診は家族の協力のもと支 援している。利用者や家族の希望で協力医に変更する こともある。協力医による月2回の往診があり、状態 変化時などにも対応できる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師1名、准看護師2名おり、常に介護職と看護職が 情報を共有し、協働できている。 体調面の変化は、まず看護職に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホームでの生活状況等の情報提供を行い、 退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の留意点 など指導を受けている。また入院中はできるだけ面会 に行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早めに対応し、家族とも連携をとり、終末期には主治 医を交えてカンファレンスを行っている。 医療連携における連携連絡体制を整えている。	
			(外部評価) 重度化した場合、利用者の状態に応じて医師と家族、 職員で話し合いを行ない、3名の看護師が中心となっ て利用者や家族の希望に沿うように事業所全体で支援 している。急変時に備えて代表者や管理者が事業所に 待機する体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習を受講している。 リスク判定と対策により、事故発生の予防に努めている。 緊急時の対応については、その都度指導と訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練（地震想定を含む）を実施。宇和島市の避難訓練にも参加し、地域での体制にも対応できるよう配慮している。 夜間停電時の対応としては、LED点滅ライトを取り付けた。保存食は整備している。	
			(外部評価) 年2回、夜間想定などの避難訓練を実施している。地域住民も交えた訓練が行えるよう取り組んでいる。宇和島市主催の避難訓練にも参加し、地域との協力体制を築こうとしている。	災害時は地域に協力を求めるとともに、事業所を一時避難所として提供するなど地域住民の一員として協力することを運営推進会議を通じて呼びかけるなど、協力体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進行した人の尊厳を守るために、他利用者の目線にも気を配るようにしている。ゆっくりやさしく耳元で声掛けすることで、プライバシーや尊厳を守っているが、現在1番の課題となっている。一人一人をよく理解し、個性を尊重し違いを把握したうえで、個別の接し方やケアの方法に気をつけている。	
			(外部評価) 利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意するなど一人ひとりの人格を尊重する姿勢がうかがえる。排泄や入浴時には特に誇りやプライバシーを損なう事がないよう配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 地域行事への参加も、本人の希望を重視することで、じっくり参加することができた。 飲み物を選んだり、食事の場所、希望の献立や外出の希望等も、日々の会話の中から表してもらったり、叶えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 得意な分野で活動できるよう声掛けしたり、場を設定している。利用者に寄り添い、起床や食事などは本人のペースや体調にあわせたり、希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 無料フリーマーケットで、その人らしい好みの洋服を選ばれたり、楽しい時間を過ごすことができた。毛染めや美容院へ行く支援を、希望により実施。化粧品をつける方には声掛けし、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 希望があればメニューを変更したり、その人に合わせた調理方法を工夫している。時には弁当や仕出しを頼んだり、外出に出かけることもある。また室内だけでなく、デッキや芝生で園児と食事をしたり、畑でできた物を調理して収穫を楽しんでいる。昼食の準備、調理、片づけと一連の動作を利用者と一緒に行えるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は利用者の状態に合わせたメニューを考えて提供している。利用者から希望があればメニューに取り入れている。利用者は、ご飯やお茶をテーブルに運んだり、片付けをする等持てる力を活かして協力している。職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 全職員でメニュー作成にあたっている。夏場にはお茶の時間を増やして脱水予防に努めたり、水分量、尿量の把握に努めている。また利用者の特徴に合わせて、水分や栄養が摂れるよう食事内容を検討している。自ら進んで飲めるよう、お茶をセッティングしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の訪問診療がある。食後声掛けし、口腔ケアを実施し、できない人には介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 日中は車いすの方もトイレでの排泄介助をしている。仕草や動作を見て、トイレ誘導の声掛けをしている。排泄の記録により、排泄パターンを把握している。また、デッキや外にいる時に、外からトイレに入れるように扉を設置している。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を用いて一人ひとりのパターンを把握して、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。失禁のある利用者には紙パンツやポータブルトイレを使用するなど、その人に合った排泄支援が行われている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分補給をまめにしている。牛乳やヤクルトを特別に毎日飲んでいる方もいる。リハビリ体操や散歩の声掛けをし、運動ができるようにしている。排泄の記録により、便秘の方には医師の指示で服薬等を行い、コントロールしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 10:00～17:00の間、利用者の希望に合わせて入浴している。人数や回数の制限はない。必要に合わせて足浴や下半身浴をすることもある。寝たきりの方でもリフトで入浴できる。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望に沿った入浴支援が行われている。リフトも備え付けてあり、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるよう配慮している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理のない楽しめる入浴を支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間一人で不安な時には、スタッフの近くのソファで休息される方もいる。昼夜逆転しないようカーテン開閉等にも気をつけながら、室温や灯り、空気の乾燥の調整をしている。日中休息をとりたい時には自由にとっていただいているし、誘導や介助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員で服薬の準備し、夜勤者が翌々日の準備をすることで2重チェックをしている。服薬が変更になった時には日誌に記入するなど、職員で周知徹底している。服薬名を覚えることで、目的や副作用も理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯物たたみや洗い物、食器拭き、段ボールまとめ、水やり、掲示物作成、歌を歌うなど、ご本人の仕事として進んでいただいている。今では声掛けしなくても取り込んでたたまれたりしている。気分転換のために外出する機会も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 広告を見てマクドナルドに買い物に出かけたり、お彼岸にお墓参りに出かけたり、日々の買い物に出かけたり、皆一緒に気分転換のために外出することも多い。また、家族と一緒に外出したりしている。夏祭り、秋祭りなど、見物に出かけている。	
			(外部評価) 買い物や散歩等日常的に外出できるよう支援している。外出行事の年間計画を立てているが、利用者の急な希望もできる限り取り入れて実施している。誕生月に外食を企画しており利用者も楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際、欲しいものを自分で買われ、支払っている。小遣いを持つことで安心感につながることもあるため、自分で少額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時は事務所の電話を使い、電話をかけるお手伝いをしている。 手紙や年賀状の代筆や投函する支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 前面に広い芝生や景色が見られ、夕焼けまで楽しむことができるようになってきている。実際に暖かさや寒さを肌で感じて、本人の意思で外への出入りができる。広さが利用者の方にとってかけがえのないものである。また、他ユニットとの行き来も大事な気分転換になっている。</p> <p>(外部評価) 共用空間の天井は高く、天窓からは自然光が差し込み明るい雰囲気がある。居間の広い窓から宇和島城や街などの景色が楽しめ、ソファでゆっくりくつろぐことができる。廊下は環境整備が行き届き、利用者が居心地よく安全に過ごせるよう空間づくりがなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 図書コーナーの設置は、興味のある方がゆっくり楽しめる空間になっている。キッチンのカウンターやデスク、またソファの配置により、思い思いの場所で過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れたタンスやソファ、テレビなど持って来られ使っている。お位牌や家族の写真などを飾っている方もおられる。家族が描かれた絵画や自分の描いた塗り絵を貼って、部屋を明るくしている方もいる。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者は使い慣れたタンスや鏡台、仏壇等を持ち込み、家族との写真や家族が描いた絵などが飾られている。利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ベッドの位置やシルバーカーの位置など、本人の力に合わせて設定している。また、靴の調整や状態に合わせてイスを変更することもある。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成 24年 10月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広々とした開放的な環境の中で生活できる。デッキを通じて2ユニットの利用者同士の交流が図れている。また担当ユニットだけでなく、他ユニットの利用者の特性の把握に努め、全職員が支援にあたっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は海や町が一望できる高台に立地し、宇和島城が目の前に見える。代表者をはじめ管理者、職員全員が前向きな姿勢でケアに取り組み、利用者の望むことは叶えてあげたいとすぐ行動に移している。代表者と管理者は職員から信頼されており、何でも話せる良好な関係が築かれている。職員は一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを行っており、穏やかに楽しく生活できるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあかり

(ユニット名) すばる

記入者(管理者)

氏名 渡部和美

評価完了日 平成 24年 10月 22日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員で、自分たちが目指している介護理念を作り、実践に努めている。年度末に見直しをし、新たな介護理念に変更した。 理念は、職員の目の届くところに掲示している。	
			(外部評価) 昨年、職員で話し合いをして理念の見直しを行い、新しい理念を作り共有し実践につなげている。年度末には、理念の実践について全職員で振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの保育園児がミュージックケアに2か月に1度来てくれたり、芋ほりを一緒にしたり、散歩の途中で立ち寄ってくれたりして、交流が増えている。また回覧板で、32班の地域の方に「あかりだより」を回していただき、事業所での行事や利用者の声を伝える機会が来ている。感謝デーには、150名ほどの地域の方の参加があった。	
			(外部評価) 地域に根ざした運営をめざし「あかりだより」を自治会に配布したり、近隣の保育園や小学校と交流の機会がある。利用者には子供の生き生きとした笑顔が喜ばれ、積極的にコミュニケーションを図っている。また、自治会のボランティアが頻りに訪問してくれる等日常的に交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月のあかりだよりで、毎月1日を見学・相談日としてお知らせし、地域の方の認知症でお困りの時の相談窓口となるよう努めている。 また、認知症の方の力や思いを伝えられるよう、たよりの内容を考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 現状を伝えていくことでグループホームを理解していただき、運営推進会議の中から相談窓口になってほしいとの要望を受け、実施している。情報を地域の人に配信し、理解者が増えている。またその中でご意見をいただき、サービスの変更等も行った。参加いただいている他のグループホームとの交流が始まっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、事業所の活動や状況を報告し課題等を話し合い、避難訓練を会議と合わせて行うなどしている。参加者からは活発な意見が出されて、意見を運営に活かすよう心がけている。</p>	<p>報告等にとどまらず、多方面からの情報を収集し幅広い意見が取り入れられるよう、近くの小学校や消防署へも参加の呼びかけをするなど工夫に期待したい。また参加者の役職を記載する等議事録がより分かり易いものとなるよう望みたい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 広報誌や報告書は速やかに市担当者へ届けて近況を伝え、時には市役所担当者より指示を仰いでいる。運営推進会議に参加いただいている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の相談等で連携を深めている。運営についても報告や相談が気軽にできる良好な関係を築いている。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修を受け、身体拘束について理解している。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員が身体拘束をしないケアを正しく理解するように、事業所の新人研修にも取り入れて、外部研修後には伝達研修を行っている。言葉での拘束がないように、職員全員で意識しながら対応をしている。日中は玄関の施錠をせず、チャイムの音や目配りで安全確認をしている。</p>	<p></p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新任者への研修を実施し、全職員虐待防止については理解している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、後見人制度を利用されている方がおられ、権利擁護については理解している。また他の制度についても理解しており、必要と判断された場合は支援できる連携体制がとれている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明し、理解していただけるように心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 熱心に参加していただき、ボランティアで施設内の大工仕事をしてくださったりしている。誕生日に利用者の思いを届けることで、利用者をかかわらぬ人として振り返ることが出来る機会を設けたり、意見を聞けるよう努力している。家族会で話し合う機会もある。家族の要望により、玄関にお知らせコーナーを設置した。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議で意見や思いを表せる場を設けている。また、家族の面会時や家族会開催時に意見や要望を聞くように努めている。家族からの意見はあまりないが、細やかな対応をするよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月のミーティングやユニット会だけでなく、リーダー会を開催。 委員会活動が中止となり、職員自らが努力している。また、行事の内容についても職員からの意見で変更することも多い。利用者のことについても種々の意見がでるようになった。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員と良いコミュニケーションを図り、良好な職場環境作りに努めている。職員は日々気付いたことを管理者に話したり、毎月のミーティングやユニット会、リーダー会でも活発に意見を出して、運営にも反映している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 基準配置以上の体制がとられ、職員は各自が勤務評価を行い、上司は努力を認めている。 代表者による緊急時対応ができ、夜勤帯の安心感につながっている。またリフレッシュ休暇の設備により、身体的に負担がかからないよう配慮されている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 多くの研修に参加する機会があり、報告会で皆で内容の共有を図ることができている。 新任者研修計画に沿って実践している。 ミーティングでの研修を内容豊かにできるように努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただいたり、市のグループホーム交流会に参加し、連携や交流を図っている。 地域密着型サービス協会の相互研修に参加し、サービスの向上とネットワークづくりに努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所申し込みの際、施設見学をしてもらっている。面接時に生活歴や要望を聞き、職員で共有している。 入所当初は本人が不安にならないよう、できるだけ傍について本人の希望をよく聞くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学をしてもらっている。 家族の要望や不安、昔話に耳を傾け、安心できるよう努めている。入所当初は家族へのこまめな報告に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の要望を聞き、叶うようケアプランに取り入れて支援している。 在宅で利用していたサービス事業所との連携に努めたり、かかりつけ医との連携をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「自分でできることは何でもするで」と、利用者より積極的に声掛けがある。 何かと一緒にするのが当たり前と考える方が多くなっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にとって来やすいホーム、話しやすいホームを目指している。ホームでの行事や生活をできるだけ多く伝えていくことで、関係や交流を図っている。 受診や外出など、できる範囲で家族に協力をいただいている。 職員と家族が馴染みの関係になっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 遠方の友人が来られたり、自宅に帰って庭を見てきたりしている。また、趣味の先生への手紙や電話のやりとりを支援し、関係が途切れないようにしている。 地域の敬老会へも参加している。 (外部評価) 利用者の生活歴を把握し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。地域の敬老会に参加したり、馴染みの美容室に通ったり、また自宅に帰り商店の仕事を手伝う利用者もいる。事業所前に馴染みの魚の行商が来て、職員と一緒に品定めをしている利用者の姿が見られた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 他利用者にやさしく声をかけたり、手を引いてくれたりと助け合う場面も多い。 難聴がある利用者同士の会話の橋渡しをし、関われるよう支援している。また、利用者の性格や特性を把握し、トラブルが起きないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 終了した方の家族さんにも今回の感謝デーなど行事に参加いただき、喜んでいただいた。 退所しても、入院が長引いている方を見舞いに行ったりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃より会話に努めており、気づいたことは報告し、できるだけ叶えている。誕生月には特に思いを聞き、文章として残し、家族へ返している。 利用者本位には考えているが、できる限り利用者の言葉で伝えていただくようにしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりに向き合いながら思いや希望を聞き取れるよう日頃から努めている。誕生月には特に時間をかけて思いを聞き取り、文章として残す工夫をしている。「思いシート」から事業所が利用者を大切にしている、思いや意向を知る努力をしていることが分かる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族の方にも生活歴をお聞きしたり、入所当初に本人、家族、ケアマネジャーから情報を得るようにしている。 新しい情報はシートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝夕の申し送り時間に徹底して情報を共有し、本人に合わせて暮らしていただけるよう、チームケアに努めている。 毎月のユニット会でモニタリングし、情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月1回のユニット会で担当者がモニタリングし、職員全員でカンファレンスし、課題の把握とケアの在り方について検討している。必要に応じてその都度ケアプランを変更している。また担当者が6か月ごとにアセスメントし、本人、家族に意向確認して介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者がその人らしく暮らせるためにはどうしたらよいか常に考えて、担当者を中心に話し合いを行い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い評価を行っている。管理者は職員の意見を反映させて、介護計画がよりよいものになるよう努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護計画の実践を24時間シートの記録に残し、1日の中で取り組むことができるようにしている。また、新たな課題が出てきたときには、随時担当者会議を開き、介護計画を見直している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) リハビリ体操の習慣化や個別のリハビリ等も取り入れている。 趣味を楽しめるよう、陶芸教室やボランティアによるお花教室を開催している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 保育園、小学校との交流が増え、感情豊かになられている。地域の魚屋、肉屋、八百屋、パン屋に来所してもらい交流している。公民館や保育園からは資材をお借りすることもある。ボランティアによるコーラスやカラオケ、詩吟など楽しませてもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医や専門医（眼科・整形・皮膚科等）の通 院は、家族の協力のもと継続している。協力医への変 更は十分体調も安定し、家族からの希望により実施し ている。体調の変化についてはすぐに対応したり、協 力医の協力も大きい。	
			(外部評価) かかりつけ医や専門医への受診は家族の協力のもと支 援している。利用者や家族の希望で協力医に変更する こともある。協力医による月2回の往診があり、状態 変化時などにも対応できる体制ができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師1名、准看護師2名おり、常に介護職と看護職が 情報を共有し、協働できている。 体調面の変化は、まず看護職に相談している。 訪問看護との連携は、ノートや口頭により実施してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはホームでの生活状況等の情報提供を行い、 退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の留意点 など指導を受けている。また入院中はできるだけ面会 に行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早めに対応し、家族とも連携をとり、終末期には主治 医を交えてカンファレンスを行っている。 医療連携における連携連絡体制を整えている。	
			(外部評価) 重度化した場合、利用者の状態に応じて医師と家族、 職員で話し合いを行ない、3名の看護師が中心となっ て利用者や家族の希望に沿うように事業所全体で支援 している。急変時に備えて代表者や管理者が事業所に 待機する体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命救急講習を受講している。 リスク判定と対策により、事故発生の予防に努めている。 緊急時の対応については、その都度指導と訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練（地震想定を含む）を実施。宇和島市の避難訓練にも参加し、地域での体制にも対応できるよう配慮している。 夜間停電時の対応としては、LED点滅ライトを取り付けた。保存食は整備している。	
			(外部評価) 年2回、夜間想定などの避難訓練を実施している。地域住民も交えた訓練が行えるよう取り組んでいる。宇和島市主催の避難訓練にも参加し、地域との協力体制を築こうとしている。	災害時は地域に協力を求めるとともに、事業所を一時避難所として提供するなど地域住民の一員として協力することを運営推進会議を通じて呼びかけるなど、協力体制づくりに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 認知症が進行した人の尊厳を守るために、他利用者の目線にも気を配るようにしている。ゆっくりやさしく耳元で声掛けすることで、プライバシーや尊厳を守っているが、現在1番の課題となっている。一人一人をよく理解し、個性を尊重し違いを把握したうえで、個別の接し方やケアの方法に気をつけている。	
			(外部評価) 利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意するなど一人ひとりの人格を尊重する姿勢がうかがえる。排泄や入浴時には特に誇りやプライバシーを損なう事がないよう配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 地域行事への参加も、本人の希望を重視することで、じっくり参加することができた。 飲み物を選んだり、食事の場所、希望の献立や外出の希望等も、日々の会話の中から表してもらったり、叶えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 得意な分野で活動できるよう声掛けしたり、場を設定している。利用者に寄り添い、起床や食事などは本人のペースや体調にあわせたり、希望に沿った支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ひげそりの支援や洋服選びのお手伝いをしている。白髪染めや行きつけの美容院へ行くなど、支援している。時季の洋服の購入に、利用者と一緒にいくこともある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 希望があればメニューを変更したり、その人に合わせた調理方法を工夫している。時には弁当や仕出しを頼んだり、外出に出かけることもある。また室内だけでなく、デッキや芝生で園児と食事をしたり、畑でできた物を調理して収穫を楽しんでいる。利用者の一言でお月見をし、食事を楽しんだ。	
			(外部評価) 職員は利用者の状態に合わせたメニューを考えて提供している。利用者から希望があればメニューに取り入れている。利用者は、ご飯やお茶をテーブルに運んだり、片付けをする等持てる力を活かして協力している。職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 全職員でメニュー作成にあたっている。夏場にはお茶の時間を増やして脱水予防に努めたり、水分量、尿量の把握に努めている。また利用者の特徴に合わせて、水分や栄養が摂れるよう食事内容を検討している。自ら進んで飲めるよう、お茶をセッティングしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科医の訪問診療がある。食後声掛けし、口腔ケアを実施し、できない人には介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 日中は車いすの方もトイレでの排泄介助をしている。仕草や動作を見て、トイレ誘導の声掛けをしている。排泄の記録により、排泄パターンを把握している。また、デッキや外にいる時に、外からトイレに入れるように扉を設置している。</p> <p>(外部評価) 排泄チェック表を用いて一人ひとりのパターンを把握して、できるだけトイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。失禁のある利用者には紙パンツやポータブルトイレを使用するなど、その人に合った排泄支援が行われている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分補給をまめにしている。牛乳やヤクルトを特別に毎日飲んでいる方もいる。リハビリ体操や散歩の声掛けをし、運動ができるようにしている。排泄の記録により、便秘の方には医師の指示で服薬等を行い、コントロールしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 10:00～17:00の間、利用者の希望に合わせて入浴している。人数や回数の制限はない。必要に合わせて足浴や下半身浴をすることもある。寝たきりの方でもリフトで入浴できる。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望に沿った入浴支援が行われている。リフトも備え付けてあり、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるよう配慮している。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、無理のない楽しめる入浴を支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 夜間一人で不安な時には、スタッフの近くのソファで休息される方もいる。昼夜逆転しないようカーテン開閉等にも気をつけながら、室温や灯り、空気の乾燥の調整をしている。日中休息をとりたい時には自由にとっていただいているし、誘導や介助している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員で服薬の準備し、夜勤者が翌々日の準備をすることで2重チェックをしている。服薬が変更になった時には日誌に記入するなど、職員で周知徹底している。服薬名を覚えることで、目的や副作用も理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の洗濯物たたみや洗い物、食器拭き、段ボールまとめ、水やり、掲示物作成、歌を歌うなど、ご本人の仕事として進んでいただいている。今では声掛けしなくても取り込んでたたまれたりしている。気分転換のために外出する機会も多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 広告を見てマクドナルドに買い物に出かけたり、お彼岸にお墓参りに出かけたり、日々の買い物に出かけたり、皆一緒に気分転換のために外出することも多い。また、家族と一緒に外出したりしている。夏祭り、秋祭りなど、見物に出かけている。	
			(外部評価) 買い物や散歩等日常的に外出できるよう支援している。外出行事の年間計画を立てているが、利用者の急な希望もできる限り取り入れて実施している。誕生月に外食を企画しており利用者も楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際、欲しいものを自分で買われ、支払っている。小遣いを持つことで安心感につながることもあるため、自分で少額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時は事務所の電話を使い、電話をかけるお手伝いをしている。 手紙や年賀状の代筆や投函する支援をしている。 趣味の先生への通信の手伝いで、交流を再開された方もいる。また、定期的に手紙を出している方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 前面に広い芝生や景色が見られ、夕焼けまで楽しむことができるようになってきている。実際に暖かさや寒さを肌で感じて、本人の意思で外への出入りができる。広さが利用者の方にとってかけがえのないものである。また、他ユニットとの行き来も大事な気分転換になっている。</p> <p>(外部評価) 共用空間の天井は高く、天窓からは自然光が差し込み明るい雰囲気がある。居間の広い窓から宇和島城や街などの景色が楽しめ、ソファでゆっくりくつろぐことができる。廊下は環境整備が行き届き、利用者が居心地よく安全に過ごせるよう空間づくりがなされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 図書コーナーの設置は、興味のある方がゆっくり楽しめる空間になっている。キッチンのカウンターやデスク、またソファの配置により、思い思いの場所で過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れたタンスやソファ、テレビなど持って来られ使っている。お位牌や家族の写真などを飾っている方もおられる。家族が描かれた絵画や自分の描いた塗り絵を貼って、部屋を明るくしている方もいる。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやエアコン、クローゼット、洗面台が備え付けられている。利用者は使い慣れたタンスや鏡台、仏壇等を持ち込み、家族との写真や家族が描いた絵などが飾られている。利用者が落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ベッドの位置やシルバーカーの位置など、本人の力に合わせて設定している。また、靴の調整や状態に合わせてイスを変更することもある。</p>	